

事業完了報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ~ 平成 30年 3月 16 日
調査研究事項	委託研究 【大阪市立天満中学校】 ・学習指導に関すること 【大阪市立東生野中学校】 ・学習指導に関すること 【大阪市立天王寺中学校】 ・学習指導に関すること 【大阪市立文の里中学校】 ・学習指導に関すること
調査研究のねらい	【大阪市立天満中学校】 【大阪市立東生野中学校】 【大阪市立天王寺中学校】 【大阪市立文の里中学校】 別紙のとおり
調査研究の成果	【大阪市立天満中学校】 【大阪市立東生野中学校】 【大阪市立天王寺中学校】 【大阪市立文の里中学校】 別紙のとおり

1 調査研究のねらい

【大阪市立天満中学校】

(学習指導に関すること。)

生徒個々の課題に応じて、効果的な学習指導のあり方について研究する。

(学校・学級経営に関すること)

幅の広い生徒層を対象にした学校・学級経営の方法について研究する。

[課題]

- ・高齢者に対する効果的な学習指導
- ・日本語の習熟度に課題のある生徒に適した教科指導
- ・国籍や年齢の差が原因となって起こる生徒間の課題の対処

[その課題を持つこととなった背景等]

- ・平均年齢が 59 歳で、それぞれに応じた教科指導の工夫を要する。
- ・在籍生徒の年齢が 16 歳から 92 歳と幅広く、学習内容への興味関心の示し方や、習熟の状況の個人差が大きい。
- ・文化や言語の違いによる意思相通が困難な場合がある。学習のベースになる日本語力の養成が課題となっている。

【大阪市立東生野中学校】

(学習指導に関すること)

生徒の学力実態を正確に把握し、その学力に応じた教育内容と教材を用意するとともに、効果的な指導方法についての研究と自ら学ぶ意欲を育てる教育活動の研究をする。

[課題]

- ・国語能力の向上と興味・関心に応じた教材づくり
- ・日本語の習得度が低い生徒に適した教科指導
- ・体育・美術・家庭科の授業での高齢者への教材の工夫
- ・既卒生徒への指導

[その課題を持つこととなった背景等]

- ・70 歳以上の生徒が全体の 56.7% を占め、また韓国・朝鮮にルーツのある生徒は 85% を超えており、生徒の日本語取得状況や学習の習熟度に差がある。そのため、個に応じた効果的な指導方法を研究する必要がある。また、昨年度より条件によって夜間学級に入学できるようになったため、今年度は既卒生徒が 8 人になった。

【大阪市立天王寺中学校】

(学習指導に関すること)

国籍や年齢層の多様化、さらに異なった生活習慣などが近年の生徒のおもな特徴となっている。また、一様に義務教育未修了者または形式卒業者であり、生活に必要な学力・日本語習得が不十分であるため、生徒のほとんどは、日常の生活・就労に困難を感じている。本校では、そのような生徒実態に鑑み、より豊かな言語感覚の習得をめざすために、基本的な日本語理解を高める指導のあり方について調査研究し、生徒の学力向上に資する。

[課題]

- ・教科学習に必要な日本語学習指導
- ・日本社会における基礎的な学力指導と日本社会で生活に必要な情報の伝達
- ・日本語でのコミュニケーション能力をつける指導

[その課題を持つこととなった背景等]

- ・義務教育未修了により、生活に必要な学力、日本語習得が不十分である。
- ・就学経験がないため、学習の方法や学校文化が身につけておらず、ひいては社会性の欠如につながっている者もいる。
- ・多様な国籍の生徒同士での人間関係の構築が難しい。

【大阪市立文の里中学校】

(学習指導に関すること)

義務教育の就学年数や習熟度の違い、既卒者等入学目的の異なる生徒個々の状況に応じた教材作成及び、より効果的な指導法を調査・研究し、生徒の学力やコミュニケーション能力の向上に資する。

[課題]

- ・高齢の生徒に対する効果的な学習指導
- ・日本語の習得度が低い外国籍生徒に適した教科指導
- ・既卒者の課題解決に効果的な教科指導

[その課題を持つこととなった背景等]

- ・様々な年齢層、国籍、就学年数の異なる生徒が在籍する状況で、生徒の日本語習得や学習の習熟度に差がある。そのために、効果的な教材作成や指導方法を探る必要がある。
- ・既卒生徒の入学目的に沿った特別の教育課程の編成が必要である。
義務教育の就学年数や入学目的の異なる生徒個々の状況に応じた教材作成及び、より効果的な指導法を調査・研究し、生徒の学力向上に資する。

2 調査研究の成果

【大阪市立天満中学校】

(1) 本年度の取組について

上記のねらいを達成するため、本年度は、教員研修と情報収集を柱に、次のような取組を行い、実践に結びつけた。

①教員研修

- ・毎月 国語科担当者が全員集まり、外国人生徒が多数集まる学級での国語科指導法について協議し、実践に結び付けた。
- ・毎月 近畿夜間中学校連絡協議会の中で、各教科・領域ごとに課題を出し合って検討を繰り返した。
- ・5月 市内の夜間学級が昼の生徒との交流活動の実践報告の研修に参加し、人権教育の観点から夜間学級のあり方を学んだ。
- ・市内の他の夜間学級で行われた公開授業を参観し、教科指導法を学んだ。

②情報収集

- ・12月 全国夜間中学校研究協議会全国大会（於：大阪）への参加
大阪各地の夜間学級の実態を学び、本校での今後の活動の進め方について参考にした。また、生徒同士の交流の場に参加することで、思いや課題を共有した。

③授業実践

- ・研修や情報収集で得た情報を教職員の間で共有し、学習内容や指導法の改善をした。その際、教科担当の枠を離れてのチームティーチングや、免許外申請を行った上で、他教科の指導に参画した。
- ・文集作成を目標に、年間を通じて計画的に指導を続けた。その結果、文字獲得の成果を実感し、さらには自己表現の場を得ることで自尊感情へと結びつけることができた。

(2) 改善充実の成果について

- ・研修を通して、生徒個々の幅広い教育課題の解決法を学んだ。夜間学級の教科指導については、実践報告の文献等の資料が少ないため、夜間学級相互の交流の場で有意義な研修ができた。
- ・本校は「体験発表」「音楽・舞踊の発表」「作品展示」などの行事で昼と生徒との交流を続けてきたが、他の夜間学級での学習活動時の交流の報告や授業参観を通じて、教科担当者の意識改革につながった。
- ・生徒の交流の場では、人前で意見表明をするなど、義務教育で経験の機会を取り戻した。そのことで自尊感情を得ることにより、夜間学級で学ぶことの大切さを再認識できた。

【大阪市立東生野中学校】

(1) 本年度の取組について

上記のねらいを達成するため、本年度は、研究授業と情報収集を柱に次のような取組を行い、実践に結び付けた。

① 研究授業

- ・12月 全教員が各教科の指導案を作成し研究授業をおこなった。教員が相互に授業参観をおこない、生徒の実態に合った教材の準備とその指導方法が適切か等、意見交換をした。今後の教科指導や学習内容の改善、充実を図った。

② 情報収集

- ・12月 全国夜間中学校研究大会大阪大会への参加
教員12名・生徒10名が参加して、交流と意見交換をおこない、自己表現力等の育成方法・教材開発についての情報を得ることができた。

③ 授業実践

学習の評価や収集した情報を活用して、学習内容の充実と学習教材の開発をおこなった。そして、より豊かなコミュニケーションに必要な日本語の学習を重点的に行うため、文集指導を通じて国語力の育成と学習意欲を育てる教育活動をおこなうことができた。

(2) 改善充実の成果について

- ・文集指導を行うことによって、生徒の内面に深く関わることができ、生徒理解にもつながった。
- ・研究大会の参加によって、生徒の自己表現力の育成や教材の開発について、教員間で研究・考察していくことができた。
- ・きめ細かい指導を継続することによって、生徒の学習意欲の向上に効果があった。
- ・既卒生徒のほとんどは高齢であり、そのため在籍している生徒と同じ教材を使って一緒に学ぶことができた。

【大阪市立天王寺中学校】

(1) 本年度の取組について

上記のねらいを達成するため、文集「わだち」の製作とその発表、生徒会活動等における群読指導を柱に、次のような取組を行い、実践に結び付けた。

① 文集「わだち」の取り組み

- ・ 4月～6月 文集「わだち」実施の年間計画を協議し、共通理解した。
各中学校夜間学級の文集を収集し参考にした。
- ・ 11月 国語科・学級活動等で「わだち」作成の取組を行った。
- ・ 2月 「わだち」をもとに「語り合う会」その他で発表・意見交流を行い、生徒個々の表現力の涵養を図った。義務教育年齢のころに、戦争や貧困、病気、差別、家庭事情等の理由により学ぶ権利を奪われてきた過去を持つ生徒たちにとって、その当時を中心とした自分史を発表したり、それを共感とともに受け入れられたりする経験は、自尊感情をはぐくみ、「生きる力」の源となる。
- ・ 通年にわたり、日本のことばや文化、習慣に触れさせることで、生徒の日本での生活に役立つ取り組みを推進した。

② 教科学習に必要な基礎的日本語習得

- ・ 年間を通して、国語の習熟度別少人数授業と日本語補習を行った。しかし、指導方法や教材活用など、指導に対する限界も見られる。

③ 授業実践

- ・ 1・2学期に昨年度までの「わだち」を教材として、教科指導・学級活動に活用した。
- ・ 生徒の学力差、年齢差に応じて、習熟度別少人数授業や入り込みを行った。
- ・ 国語の時間にさまざまな日本語や日本の文学作品に接するとともに、国語科のみならず、生徒全体の取り組みなどでの群読等で、国語の授業以外の様々な場面で日本語に慣れ親しむ取り組みが進められた。そのほか、日本での生活に必要な文化・情報などについて学習させたりすることで、細やかな情感の感得、日本語の表現力の向上に努めた。

④ 研修

- ・ 毎学期、生徒情報交換会等を行い、一人ひとりの実態把握や指導方法について意見交換を行った。

⑤ 全夜中研大会（大阪・堺市）

- ・ 全体会や本校での学校交流に生徒参加・発表させ、生徒間のコミュニケーションの場を構築した。

(2) 改善充実の成果について

- ・ 全教員が言語活動に関わることで、生徒にとり多様な国語力習得のベースとなった。また、それらが、教育相談等の生徒理解の充実にもつながっており、よりきめ細かな生徒対応も可能となった。
- ・ 教科学習での理解度はともかく、授業をはじめとする学校生活全般に対する満足度・安心感が例年同様、大いに高まっている。
- ・ 学校行事への生徒の積極的な参加が見られ、初めて体験する行事でも興味深く参加していた。
- ・ 自らの過去を「わだち」で発表することが、同じ思いを持つ仲間から受け入れられるという意味で、生徒間の人間関係の改善に大いに役立っている。また、未就学により社会の差別や偏見を受けてきたつらい過去を乗り越え、社会に真正面から向き合う成長も見せている生徒もいる。さらに、日本の社会での常識的な考え方や生活の仕方を伝えることもできた。

【大阪市立文の里中学校】

(1) 本年度の取組について

上記のねらいを達成するため、本年度は、文集「雫」の作成と教員研修、授業実践を柱に次のような取組を行い、実践に結びつけた。

① 教員研修

- ・ 9月に「生徒理解研修会」を開催し、生徒個々の全教科担任より資料を作成し、実態把握と教材作成や指導方法について意見交換をした。
また、反省と課題の確認を行うなど、学習指導や学習内容の改善・充実を図った。

② 情報収集と発表

- ・ 年間を通じて、近畿夜間中学校連絡協議会教材作成委員会等に参加し、教材作成についての情報収集と意見交換を行い、成果を得た。
- ・ 12月 全国夜間中学校研究大会にてこの成果を発表するとともに他校の教育実践の情報収集を行い活用した。

③ 授業実践

- ・ 研修や収集した情報を活用し、多様な学習内容と教材を準備し、全教科学習の基礎となる言語活動を重点的に行った。学級内における生徒の習熟度の差に対応するため、複数教員によるティームティーチングを取り入れ、きめ細かな指導で、学習意欲の高まるわかりやすい授業づくりに結び付け、多様な日本語の表現方法を学ばせ、語彙を深めさせ、文章を綴り、生徒自らの思いや考えを伝える文集「雫」を作成した。

④ 文集「雫」の取組

- ・ 4月～6月 文集「雫」実施の年間計画を協議し、共通理解した。
- ・ 11月 国語科・学級活動等で「雫」作成の取り組みを行った。
- ・ 1月 「雫」をもとに作文発表会で発表した。
生徒は、義務教育年齢のころ、戦争や貧困、病気、差別、いじめ、虐待、家庭事情等の理由により学ぶ権利を奪われてきた過去を持つ。
これを発表し共感とともに受け入れられた経験は、つらい過去と向き合う勇気と生徒の自尊感情をはぐくむ。
- ・ 大阪府教育委員会教育委員 岡田 美香 様をはじめ大阪府教育庁、大阪市教育委員会、八尾市教育委員会の来賓の皆様から高い評価を受けることができた。

(2) 改善充実の成果について

- ・ 研修により、生徒個々の状況について全教職員の共通理解を図ることができ、より個に応じた指導を推進することができた。
- ・ 教科学習での理解度が向上し、授業における満足度が上がった。
- ・ 学校行事に積極的に参加するようになった。
- ・ 健康面での生徒情報の共有や授業や学校行事での配慮により、校内では大きな事故はなかった。
- ・ 自らの過去を文集「雫」で発表し、同じ思いを持つ仲間から受け入れられることで生徒間の人間関係の改善に役立っている。また、未就学により社会の差別や偏見を受けてきたつらい過去を乗り越え、社会に真正面から向き合う成長を見せている。